

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 9	公益目的事業 16
主査名	庭田文近 城西大学准教授	
研究テーマ	自然観光地の持続可能な利用に関する研究	
新型コロナウイルス感染症拡大によって、観光は大打撃を受けた。今後、当該感染症が収束ないしは終息すれば、観光需要も回復することが期待される。こうしたいわゆるアフターコロナの人々の観光行動として、他者との接触をなるべく避けるために、移動手段に自家用乗用車を使い、目的地に自然観光地を選ぶという傾向が相当数見られると思われる。 そこで、本研究では、世界自然遺産や国立公園、自然公園、山岳などといった自然観光地について、その観光利用と環境・生態系の保全を両立させる持続可能な観光を目的に、自然環境・生態系の経済評価の理論と手法を整理するとともに、自然環境資源の適正利用を巡る議論および自然観光地の入域管理・アクセス規制を巡る議論に経済学・政治学・行政学の観点から検討を加えていく。 研究の方法は、以下のとおりである。 (1) 自然環境・生態系の経済評価の理論と手法を整理 環境経済学の文献の精読 グリーンインフラ（Green Infrastructure）の検討 (2) 自然環境資源の観光利用と管理を巡る議論の検討 環境保全地域への入域管理の事例収集 入域料金の検討 環境学・経済学・政治学・行政学の専門家のディスカッション (3) 現地調査（新型コロナウイルス感染症が収まれば実施予定） 全国で2番目に地域自然資産法に基づき入域料が徴収された妙高山・火打山（新潟県妙高市）の視察		